



エコアクション21 環境経営レポート 2024 年度

(対象期間:2024年1月 ～ 2024 年12月)



今、私たちに出来ること。

株式会社 板宮建設



作成日: 2017年4月1日
更新日: 2025年4月16日

目次

1	環境経営方針		1
2	事業の概要		2
3	環境経営組織図及び役割・責任・権限表		3
4	環境経営目標		4
5	環境目標の実績と達成状況		5
6	環境活動計画の取り組み結果と評価、 次年度以降の取り組み内容		6～10
7	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価 並びに違反、訴訟等の有無		11
8	代表者による全体評価と見直し結果		

1. 環境経営方針

＜環境経営理念＞

当社は、地球規模での環境保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、事業活動において、環境に配慮した作業方法や資機材の使用を図り、環境負荷の低減を積極的に推進し、人々が暮らしやすい街づくりと環境づくりを目指し、持続可能な地域社会の実現を目指します。

＜環境行動指針＞

株式会社板宮建設は、建設業に携わる事業者として、事業活動における環境への影響を理解し、環境経営を優先課題と位置づけ、以下の事項について積極的に環境活動を推進します。

1. 事業活動に伴う環境負荷を低減するために、次の重点項目に取り組みます。
 - ① 脱炭素化社会に向けて電力や燃料の二酸化炭素排出量の削減に努めます。
 - ② 廃棄物の発生抑制につとめ、建設系廃棄物の削減及び建設副産物のリサイクルの実施に努めます。
 - ③ 水資源の有効利用のため、水使用量の削減に努めます。
 - ④ 環境配慮施工での工事の推進に努めます。
2. 事業活動に関わる環境関連法規や当社が約束したことを遵守します。
3. 環境教育・訓練の実施により環境に関する知識・認識を高め、環境問題の意識向上を図っていきます。
4. 社外への環境経営レポート公開や、ボランティア活動を通じて地域貢献に取り組む事で、地域に根ざした環境保全活動でのコミュニケーションを図っていきます。
5. 作業所における環境負荷の低減を推進するため、環境パトロールを実施していきます。
6. 環境経営の継続的改善を行い、ステップアップを図ります。

環境方針は、全従業員が理解し、取り組むことができる様、社内掲示等で周知徹底を図っていきます。

制定日： 2016年2月15日
改定日： 2023年9月22日

株式会社 板宮建設
代表取締役社長 板宮 一善

2. 事業の概要

◆組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社板宮建設
代表取締役社長 板宮 一善

(2) 所在地

【本社】

〒023-0813
岩手県奥州市水沢中町44番地 イーストジャパングル3C
TEL 0197-34-1720 FAX 0197-34-1721
E-mail info@itamiya.jp
ホームページ <http://itamiya.info/>

【金ケ崎営業所】

〒029-4503
岩手県胆沢郡金ケ崎町西根矢来19

【資材倉庫】

〒029-4502
岩手県胆沢郡金ケ崎町三ヶ尻欠下45番1号

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 柴田 幸好 TEL:0197-42-2225
担当者 総務部 阿部 順子 TEL:0197-42-2225

(4) 事業内容

岩手県知事許可（般・特-2）第 2332 号

【特定建設業】

土木工事業、建築工事業、とび・土工工事業、管工事業、ほ装工事業、解体工事業

【一般建設業】

大工工事業、石工事業、屋根工事業、タイル・れんが・ブロック工事業
しゅんせつ工事業、内装仕上工事業、造園工事業、水道工施設工事業

(5) 事業の規模

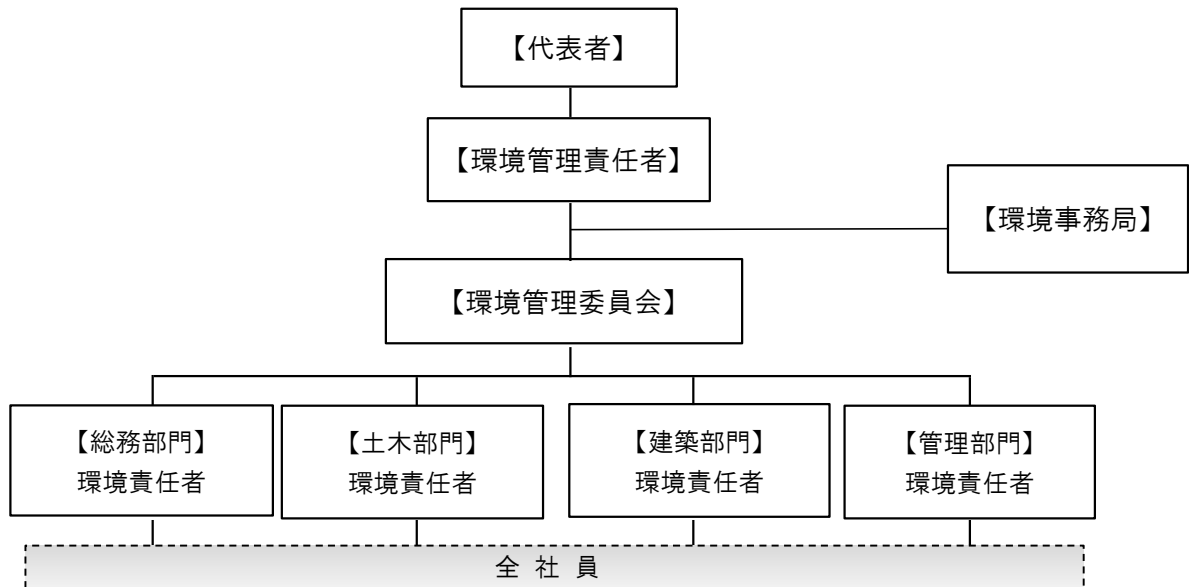
年度 指標	2021 年度 (R3.1～R3.12)	2022 年度 (R4.1～R4.12)	2023 年度 (R5.1～R5.12)	2024 年度 (R6.1～R6.12)
工事等の件数	20 件	22 件	13 件	13 件
従業員数	55 人	57 人	56 人	52 人
売上高	145,082 万円	149,779 万円	108,076 万円	117,449 万円
事務所床面積	686 m ²	759 m ²	759 m ²	759 m ²
倉庫床面積	509 m ²	509 m ²	509 m ²	509 m ²

(6) 認証登録範囲

全社、全組織、全事業活動が認証登録範囲

3.環境経営組織図及び役割・責任・権限表

1 組織 実施体制図



2 役割・責任・権限

役割・責任・権限	
代表者	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・課題とチャンスの明確化 ・実施体制の構築 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者及び環境管理委員会へ報告 ・環境経営レポートの確認 ・従業員に対する教育訓練の計画
環境事務局	・環境管理責任者の補佐 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境経営活動計画書の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
環境委員会	・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
環境責任者	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚し能力向上に努める ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

4.環境経営目標

◆主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年	2022年	2023年	2024年
二酸化炭素総排出量	kg-CO2	869,153	746,927	579,523	598,790
一般廃棄物排出量	kg	1,245.8	971.0	737.0	234.5
産業廃棄物 再生資源化率	%	84.4	95.6	93.8	98.4
水使用量	m ³	214	227	249	246

2021年度調整後排出係数 東北電力 0.457Kg-CO2
リコージャパン(株) 0.441Kg-CO2

◆環境経営目標

環 境 目 標		単位 基準比	2021年度 基準値	当期目標 2024年度目標値	中期目標(内単年度目標) 2022年度目標値 2023年度目標値 2024年度目標値		
Ⅰ 二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量の削減	Kg-CO2 基準比	869,153 100%	843,078 97%	860,461 99%	851,770 98%	843,078 97%
	電力使用量の削減	Kg-CO2 kwh 基準比	53,379 103,433 100%	51,778 100,330 97%	52,845 102,399 99%	52,311 101,364 98%	51,778 100,330 97%
	自動車燃料使用量の削減	Kg-CO2 ℓ 基準比	791,144 308,658 100%	767,410 299,398 97%	783,232 305,571 99%	775,322 302,485 98%	767,410 299,398 97%
	灯油使用量の削減	Kg-CO2 ℓ 基準比	23,876 9,589 100%	23,159 9,301 97%	23,637 9,493 99%	23,398 9,397 98%	23,159 9,301 97%
	LPG使用量の削減	Kg-CO2 Kg 基準比	754 252 100%	731 244 97%	747 249 99%	739 247 98%	731 244 97%
	Ⅱ 廃棄物排出量	一般廃棄物排出量の削減	Kg 基準比	1,246 100%	1,209 97%	1,234 99%	1,221 98%
建設副産物の 再資源化率の向上		%	84.4	87.0	85.0	86.0	87.0
Ⅲ 水使用量の削減		m3 基準比	214 100%	208 97%	212 99%	210 98%	208 97%
Ⅳ 環境苦情の削減		件数	0	0	0	0	0
Ⅴ 地域貢献活動の実施		回／年	21	21	21	21	21

5.環境目標の実績と達成状況

◆ 環境活動の結果と評価

取組項目		単位	基準年実績値	該当年 2024年(1月～12月)		達成状況
			2021年	2024年目標値	2024年実績値	
Ⅰ 二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出量の削減	Kg-CO2	869,153	843,078	598,790	○
	電力によるもの	Kg-CO2	53,379	51,778	42,722	○
	自動車燃料によるもの	Kg-CO2	791,144	767,410	545,496	○
	灯油によるもの	Kg-CO2	23,876	23,159	9,061	○
	LPGによるもの	Kg-CO2	754	731	1,511	×
Ⅱ 廃棄物排出量	一般廃棄物排出量の削減	Kg	1,246	1,209	235	○
	建設副産物の再資源化率	%	84	87	98	○
Ⅲ 水使用量の削減		m3	214	208	246	×
Ⅳ 環境苦情の削減		件数	0	0	0	○
Ⅴ 地域貢献活動の実施		回／年	21	21	9	×

6.環境活動計画の取り組み結果と評価、次年度以降の取り組み内容

【電 力】

CO2排出量

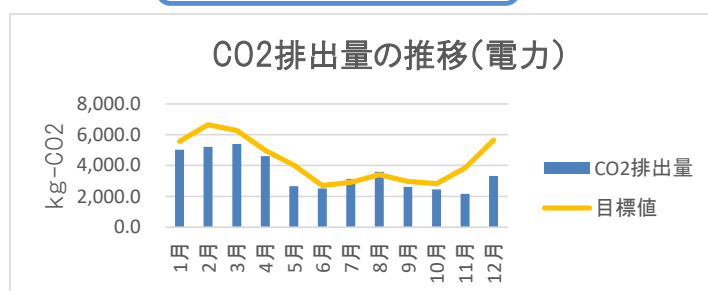
目標値

51,778 kg-CO2

実績値

42,722 kg-CO2

取組内容	達成状況
数値目標	○
エアコンの適温化(冷房28℃・暖房20℃)	△
パソコン・コピー等OA機器の省電力設定	○
冷暖房時のドア解放禁止	○



・ 取組結果とその評価

7月・8月は猛暑による影響でエアコン使用頻度が増えたため電気使用量が増加したが、OA機器の省電力設定による節電や不要照明の消灯を徹底するなどの取り組みをおこなった結果目標値より17.5%削減することができた。

・ 次年度の取り組み

近年の温暖化による猛暑で夏季はエアコンの使用頻度が更に増えると考えられるが、定期的なエアコンのフィルター清掃や、エアコン使用時にはサーキュレーターを回すなどエアコンの適温化の取り組みを引き続き行う。

また、不要照明の消灯やOA機器の省電力設定についても今期と同様に取り組みを続けていく。

【燃 料】

ガソリン・軽油

CO2排出量

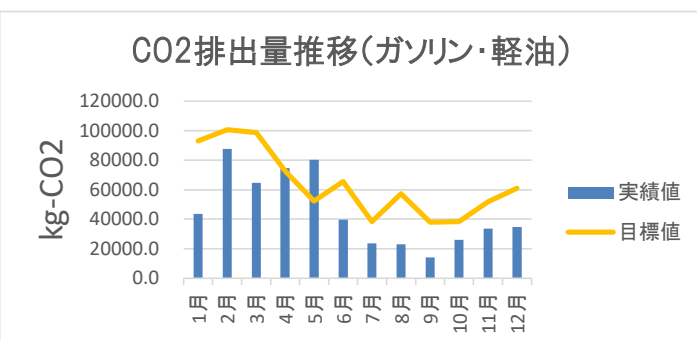
目標値

767,410 kg-CO2

実績値

545,496 kg-CO2

取組内容	達成状況
数値目標	○
車両・重機のアイドリングストップ	○
過積載防止と無理な操作等による過剰負荷をかけない運転	○
タイヤの空気圧チェック	○



・ 取組結果とその評価

4月～5月は重機械を多用する土木工事の施工時期が数件重なったことで、ガソリン・軽油使用量が一時的に増加し、月別目標の達成には至らなかったが、現場での低燃費・低排出ガス型重機械の積極的な使用やアイドリングストップ・エコドライブを推進したことで目標値より28.9%の削減を達成することができた。

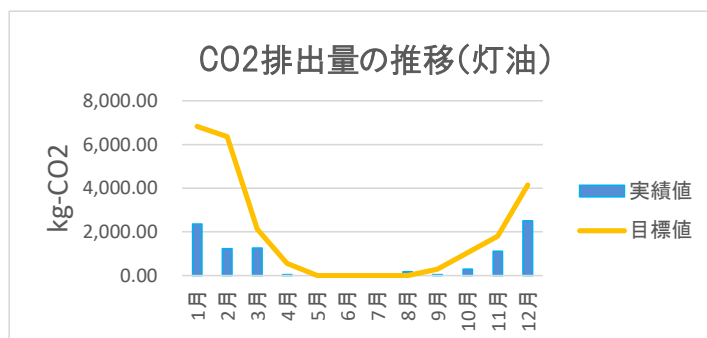
・ 次年度の取り組み

重機械については低燃費・低排出ガス仕様のものを今年度同様積極的に使用し、アイドリングストップエコドライブについても引き続き、現場パトロール時や会議時に徹底するよう周知をおこなっていく。

灯 油



取組内容	達成状況
数値目標	○
ストーブ温度の適温化(暖房20℃)の遵守	○
冬場のコンクリート養生の工夫	○
エアコンと灯油ストーブの併用	○



・ 取組結果とその評価

暖冬により灯油ストーブ使用頻度が減少したことによる影響もあるが、ウォームビズや灯油ストーブ使用時の省エネ設定の取り組みの成果もみられたことで、目標値の60.9%削減を達成することができた。

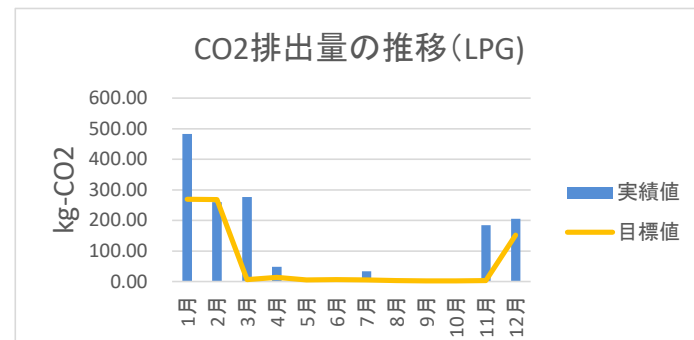
・ 次年度の取り組み

ウォームビズの推進、灯油ストーブ使用時の省エネ設定を遵守する取り組みを引き続きおこなっていく。

LPG



取組内容	達成状況
数値目標	×
ガス湯沸し器は低温で使用	○
ガスバーナーは使用時のみ点火	○



・ 取組結果とその評価

現場でのガス使用量は減少したものの、本社の暖房設備がガスストーブのため冬期間は特に使用量が増加し目標値達成には至らなかった。
目標値を設定した時期と今期では会社組織の状況が異なることから、目標値の見直しを行う必要がある。

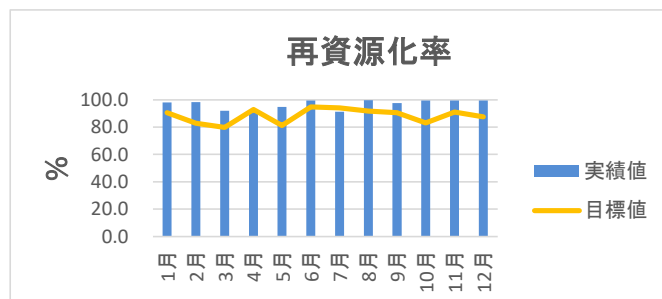
・ 次年度の取り組み

現場ではガスバーナーの使用時のみ点火の取り組みはできているので、次年度も継続するよう周知をはかる。本社においてはウォームビズを推奨するなど、使用量削減へ向けた取り組みをおこなう。

【産業廃棄物】



取組内容	達成状況
数値目標	○
マニフェストを基に廃棄物の適正な処理をおこなう	○
素材別ボックスの設置	○
再資源化率の向上	○



- ・ 取組結果とその評価
年間を通してみるとマニフェストを基にした適正な処理と分別の徹底の取り組みがおこなわれたことで再資源化率は目標値より11.4%上昇した。
- ・ 次年度の取り組み
産業廃棄物排出量は受注工事数や工事の種類にも左右されるが、再資源化率のさらなる向上を目指し、マニフェストを基にした適切な処理と分別の徹底を継続して取り組んでいく。

【一般廃棄物】



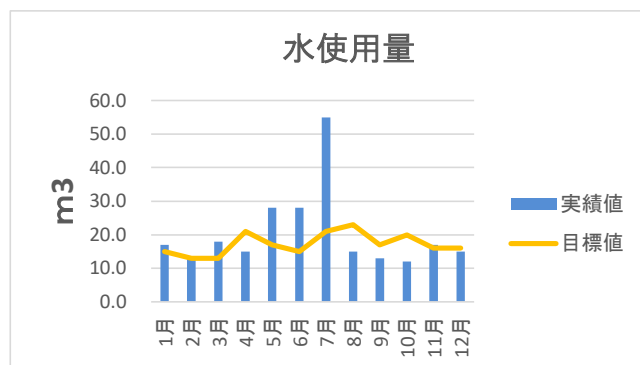
取組内容	達成状況
数値目標	○
分別の徹底	○
ミスプリントの裏面使用	○
両面コピーの促進	○

- ・ 取組結果とその評価
ゴミの分別やミスプリントの裏面使用の取り組みが事務所内のみならず各現場でも徹底されたことで目標値を達成することができた。
- ・ 次年度の取り組み
引き続きペットボトル、空き缶、使用済みのコピー用紙等のリサイクルを徹底しゴミの減量化に努める。

【水使用量】



取組内容	達成状況
数値目標	×
節水意識の向上	×
車両洗車時の効率的な洗車	×



・ 取組結果とその評価

今期の水使用量は年間を通して大幅に増加し、年度目標値を達成には至らなかった。

特に5月～7月は資材倉庫内清掃及び重機械の洗車を集中的におこなったことによる影響が大きい。

・ 次年度の取り組み

節水を促すためよりわかりやすい掲示に変える。

今期のような清掃や洗車作業は限定的なものと考えられるが、こまめな清掃・洗車作業が節水へもつながるため会議や安全教育時などで周知をおこなう。

【環境苦情】

・ 取組結果とその評価

アイドリングストップの徹底や現場での低騒音型建設機械の使用の取り組みがなされたことで、今期も環境苦情ゼロを達成することができた。

・ 次年度の取り組み

アイドリングストップの徹底、現場においては低騒音型建設機械の使用の促進で環境苦情ゼロに努める。

【地域貢献活動】

実施日	行事名	活動内容
4月15日	金ヶ崎町クリーン作戦	ゴミ収集活動
4月18日	北上川流域清掃活動	北上川金ヶ崎流域・水沢地域・前沢流域河川敷の清掃活動
6月16日	アドプト活動	七里ため池の草刈り活動
6月20日	建設業奉仕事業	金ヶ崎町森山一号線ほか路肩等路肩等草刈業務
7月5日	安全大会	ゴミ収集活動
8月9日	「道の日」に伴う清掃（ボランティア）活動	ゴミ収集活動
9月8日	アドプト活動	七里ため池の草刈り活動
10月8日～10日	令和6年度インターンシップ	岩手県立水沢工業高等学校 設備システム科・インテリア科 2年生 就業体験
12月13日	安全大会	ゴミ収集活動

・ 取組結果とその評価

今期は9件の地域貢献活動をおこなった。目標値を定めた年は災害復旧工事など岩手県全域で行っていたが、近年は内陸地域を中心とした工事を多く受注し、それに伴い地域貢献活動も沿岸地域での活動から内陸地域での活動に移行した。例年通り地域貢献活動は行っているものの目標値を定めた年と2024年度では受注範囲に変更があったため目標値と実績値では大きな開きがあった。

・ 次年度の取り組み

地域のボランティア活動に積極的に参加し、インターンシップの受け入れも積極的におこなう。現状に沿った目標値の設定と取り組みをおこなう。

令和6年度安全大会 地域貢献活動



就業体験



7.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

法令・条例・規則の名称	条項	摘要される事項	遵守評価
建設リサイクル法	第10条	対象建設工事の届出	○
石綿障害予防規則	第13条	作業主任者の選任、作業の届出	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	第12条5項	産業廃棄物は許可業者に委託する	○
	第12条の3	産業廃棄物管理票の交付	○
	第12条の3 2項	産業廃棄物管理票の5年間保存	○
	第12条の3 7項	産業廃棄物管理票交付状況報告	○
オフロード法	第17条	特定特殊車両を使用する際は基準に適したものを使用する	○
フロン排出抑制法	第16条	第一種特定製品のエアコン簡易点検	○

当社が法的義務を受ける環境関連法規について遵守状況をチェックしたところ違反はありませんでした。

なお、関係機関からの違反や指摘等もありませんでした。

8.代表者による全体の評価と見直し・指示

項目	評価	改善・指示
環境経営方針	次年度も環境方針に沿って、引き続き環境保全活動に取り組む。	特になし
環境目標・活動計画	CO2排出量に関してはLPG使用量が増加したものの全体としては目標を達成している。 水使用量は削減できていないため、目標にむけての取り組みが必要である。 LPG排出量は会社組織の変更に伴い、本社ガスストーブの使用量が増加し、目標削減達成には至らなかったため目標値の見直し及び取り組みの改善を行う必要がある。	目標未達成項目の活動については改善に取り組む。
実施体制	特になし	特になし
総 評 環境負荷(二酸化炭素排出量、廃棄物排出量)は、目標達成となり良好である。様々なエコ活動対策を講じ、社員一人一人が環境への意識を持ったことで、環境負荷をこの先どのように持続もしくは改善させるかの目標を立て会社内で共有し、その取り組みを継続することで、弊社のコスト削減、環境への負荷の軽減につながるという自覚を社員全員が理解し現場・会社で連携して環境への配慮を続けていく。		